

ヘルスケアミーティング 2022 を振り返って

千草隆治（コアメンバー）

4年ぶりに通常メニューでヘルスケアミーティングが開催されました。2019年は台風、2020、2021年はコロナ禍で形を変えての開催でした。杉山精一代表はじめ関東組は、いつもより参加者が少ない会場で雰囲気作りに苦心し、私のような地方組は診療所や自宅からオンライン参加で臨場感に欠ける形で、それぞれが今までと違う運営や参加を余儀なくされ、完全燃焼できないヘルスケアミーティングが続きました。そして今年はWeb併催ですが、メイン会場は120名を超える満席で演者そして参加者の熱気をリアルに感じるミーティングになり、やっぱりリアルがいいなとみんなが実感した2日間になりました。オンライン配信に関しても、ここ数年の経験が活き、大きなトラブルもなく進行しました。

1日目は3年に及ぶコロナ禍がテーマで、ゲストスピーカーのWHITE CROSS代表赤司征大さんがデータをもとに時系列に振り返り、それが社会に与えた影響を語っていただき、コロナ禍でも歯科医療の役割が高まり続けていることを示していただきました。その後、会員診療所のコロナ禍での経験、取り組みの発表が時系列であり、より身近な問題として自身に置き換えて考えることができ、これからの危機管理に役立つ有意義な時間となりました。

1日目の最後には古市貴暢さん、寺岡徳光さんの司会進行でポスター発表者との交流会が行われました。今年はポスターも18題と盛況で内容も多岐にわたり興味深いものばかりでしたが、2日目は国立長寿医療研究センター理事長の荒井秀典さんと、この分野ではトップランナーであり当会会員でもある足立融さんを迎え、メインテーマの「高齢者のヘルスケア診療」に関する講演をいただき、午後からは会場を交えてディスカッションを行いました。ヘルスケア歯科診療における高齢者、とりわけ後期高齢者以降の患者に対して何を見てどう関わることが必要なのか、そして、そのことが日本ヘルスケア歯科学会の主旨といかに合致することなのか、また、ヘルスケアだからこそできることがあるということに気づかされた内容で、企画段階から参加させていただいた私もこの講演後、スタッフと一緒に考え、新たな取り組みを行うことを決めました。

2日目の最後で今年のヘルスケアミーティングのトリを務めたのは、CRASPを用いたカリエスマネジメントの発表でした。このテーマではカリエスマネジメントの概略が語られたあと、各ライフステージごとに発表が行われ、カリエスマネジメントの基本が掴めたのではないかと思います。じつはこれは来年への布石でした。来年はこの先に焦点を当てた企画が用意されます。どうぞご期待ください。

2日間を通して、多くの方が発した言葉が「信頼関係」でした。コロナ禍を家族、スタッフと乗り越えるにも、コロナ禍で患者に安心して来院していただくのも、超高齢患者の変化に気づき、家庭や生活に介入していくのも、問診から患者のカリエスリスクを判断し、行動変容につなげるのも、すべて、信頼関係がなくては達成できないものばかりです。スタッフや患者との信頼関係を常に重視してきたヘルスケア歯科診療所であれば下地はすでにできているのではないのでしょうか。今年のヘルスケアミーティングで取り組んだ課題はもしかすると、やろうと思えばできることばかりなのかもしれません。そのように感じて新たな取り組みを始める会員診療所が増えていけば、今回の企画は成功だったと言えるのだと思います。